

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇SSH (スーパーサイエンスハイスクール)		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・進路希望では理系が51.0%, 文系が33.3%となっており, 理系人材の育成のために本校SSHが果たすべき役割は引き続き大きい。本校理数科1年生の76.3%(本年度)が, SSH指定校であったことを選択の理由としている。SSH指定の14年間に継続してきた小中学校連携講座や広報, 企業・研究所との事業の成果の一つである。今後も科学技術系人材の育成に力を入れていく。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇課題研究: 問題発見能力と科学的探究力を育成する指導法の実践。 ◇学校設定科目: 論理的思考力と表現力を育成する指導の実践。 ◇探究型学習のパフォーマンス評価の研究開発。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・探究理数科部およびSSH実行委員会を置く。 ・SSH実行委員会は各分掌、教科、学年と連携する。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 課題研究の指導計画, 方法の改善 (2) 学校設定科目の指導内容の改善 (3) 外部機関と連携した事業の展開	(1) 生徒意識調査 (2) 連携先・保護者・教員へのアンケート (3) 運営指導委員会による指導と評価		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①課題研究: 第一学年ではミニ課題研究を反復しテーマ設定を行った。第二学年で探究を深め, 第三学年ではまとめと外部での発表を行った。 ②ディベートと英語による表現を積み重ね, 論理的思考力と表現力の習得と評価を行った。 ③探究型学習を繰り返し, 主体的・協働的に問題を解決する活動を行った。	①課題研究により問題発見能等4つの力が育成できたか。 ②論理的思考育成プログラムにより論理的思考力, 表現力が育成できたか。 ③探究型学習の評価方法を開発し試行できたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課題 ○課題研究: 第一学年は問題発見を重視し主体的なテーマ設定を実践できた。第二学年では探究を深め, 第三学年で多様な発表活動を行った。 ○岐阜県内の理数教育先進校と合同研究発表会を実施し, 生徒の交流を図った。 ○論理的思考を習得するトレーニングとしてのディベートは指導方法と内容をより多くの教員に普及できた。 ▲課題研究の指導内容と評価法については引き続き検討を続ける。 ▲カリキュラムマネジメントを意識した教育課程の開発に工夫が必要である。 ▲地域における基幹校として小中学校や地域と連携を進めていく必要がある。	総合評価 A (B) C D		
12 来年度に向けての改善方策案 (①手だて ②見通し ③根拠)	①課題研究を通して生徒に身に付けさせたい力を再確認し, 引き続き, 生徒の変容を把握できる評価方法を開発し実施する。また, 授業改善を進めるための探究学習の手法と実践を研究実践する。 ②課題研究とが学校設定科目の指導法と内容, 教材は通常授業の改善に活用できる。 ③探究型学習の指導方法は, 学習の各場面における問題発見, 課題設定, 課題解決の手法そのものであるから。今後, 探究型学習のパフォーマンス評価を試行することで通常授業への普及とその改善に十分活用できる。また, 学校設定科目の教科担任経験者も増えており, 普通科の探究学習や通常授業への活用が行われはじめている。		

II 学校関係者評価

実施年月日: 令和2年1月28日

【意見・要望・評価等】 ・ディベートは以前はよく行われていたが, 今はあまり聞かなくなっていた。そうした現状で恵那高校ではしっかり取り組んでいる。問題に対してデータや視点を整理することは, たいへん有効で経験も多くなる。 ・理数科発表会では, 目標あるいは何のためにを深く考えながら生徒が発表していた。学習の意義をよく理解できていると感心した。 ・SSHに指定された初期の生徒が, この取組を現在の生活のどのように生かされているか追跡調査し, フィードバックするとよい。
--

